

# サッカー一筋の人生 まだまだ頑張ります



大畑 正巳さん  
(62歳・横山町2丁目)

## サッカーの心は仕事にも生かせます

世界最大のスポーツイベントと言われる“ワールドカップ”が日本・韓国共同開催で行われています。今のようにメジャーでなかったころからサッカーに魅せられ、これまでに2,000試合以上の審判を務められ、現在も審判として活躍している大畑正巳さんを訪ねました。

「18歳の時に友人から誘われ趣味として始めたころは、まだ蹴球と呼ばれていました。サッカーは、世界で一番行われているスポーツで、ルールは非紳士の行為に対する罰則以外、オフサイドだけと言ってもいいくらい単純ですが、やればやるほど奥が深いところが好きですね。個人プレーよりチームワークが大切で、それぞれのポジション別に役割がありますので、体の大きい人も小さい人も体格による差がなく活躍できます。」とサッカーの魅力について話してくれました。

ぶんがくかん発  
Vol157

## 古河文学散歩

### 古河文学散歩コース紹介

前回文学散歩について取りあげました。今回は、文学散歩のコースをご紹介します。

#### 1万葉古河の歌碑（古河駅西口）

大久保翠洞揮毫による歌碑。

#### 2鷹見泉石記念館

幼児雑誌「コドモノクニ」を出版し、児童文学に大きな足跡を残した鷹見久太郎の生家。市原麻里子著「天保の雪」は、鷹見泉石を主人公とした歴史小説。

#### 3古河歴史博物館

奥原晴湖と河鍋晁斎の肉筆画、源三位頼政の肖像画（複製）、万葉集に歌われた韓楫の音を再現したコーナーもある。

#### 4古河文学館

「古河の文学」情報発信の拠点。

#### 5古河市立古河第1小学校

歴史小説家永井路子の母校。詩人の粒来哲蔵が20代後半に2年間教鞭を執った。

#### 6河鍋晁斎誕生の地

仮名垣魯文の「安患楽鍋」の挿絵を描いた日本画家。「地獄極楽図」他。

#### 7永井路子旧家

永井路子が生後まもなく東京から古河に転居し結婚するまで住んだ家。

#### 8和田芳恵の墓

直木賞はじめ数々の文学賞を受賞。樋口一葉の研究

家としても活躍した。

墓碑銘は「寂」宗願寺に眠る。

#### 9河口信任旧居跡

日本で二番目の人体解剖書「<sup>かいしへん</sup>解屍編」を刊行。小林久三著「むくろ草子」に登場し、作品の舞台ともなる。

#### 10頼政神社

平安末期の武将で歌人としても名高い源頼政を奉る。（頼政伝説）

#### 11.芳流跡

中村真一郎著「感情旅行」の舞台となった日本旅館。草野心平などの文化人が多数宿泊している。

#### 12.古河城跡

曲亭馬琴の「南総里見八犬伝」の舞台。古河公方時代城内に連歌師の猪苗代兼載が住んだ。

#### 13.万葉古河の歌碑（渡良瀬堤上）

生井子華揮毫による歌碑。古河のわたりは、西行の歌も1首残されている。（山家集）

#### 14.下宮八幡宮

足尾鉾毒事件で活躍した田中

正造・歷程の詩人逸見猶吉ゆかりの谷中村より移転。

#### 15.正定寺

徳川三代に仕えた大老土井利勝など土井家の墓。

#### 16.若杉鳥子文学碑

女流プロレタリア作家若杉鳥子ゆかりの地。



横山町にある鳥子の文学碑